

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議経過要旨

会議名	令和元年度 第2回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会				
日時	令和元年11月21日(木) 午前10時00分～午前12時00分	場所	木津川市役所 第2北別館 2階会議室		
出席者 ■出席者 □欠席者	委員	<p>【第2号】 <input checked="" type="checkbox"/>真山 達志委員(会長) <input checked="" type="checkbox"/>今里 佳奈子委員(副会長)</p> <p>【第3号】 <input type="checkbox"/>市川 浩之委員 <input type="checkbox"/>畠上 拓也委員 <input checked="" type="checkbox"/>中崎 鉄也委員 <input checked="" type="checkbox"/>吉田 慎太郎委員(代理) <input type="checkbox"/>長尾 達也委員 <input type="checkbox"/>姜 京希委員 <input type="checkbox"/>松尾 有基委員 <input type="checkbox"/>佐脇 貞憲委員 <input type="checkbox"/>西村 正子委員 <input checked="" type="checkbox"/>三上 かず子委員 <input checked="" type="checkbox"/>川崎 あき委員 <input checked="" type="checkbox"/>浦辻 克穂委員 <input type="checkbox"/>新谷 まさこ委員 <input checked="" type="checkbox"/>福田 藍委員 <input checked="" type="checkbox"/>大倉 竹次委員 <input checked="" type="checkbox"/>澤田 晋治委員 </p>			
		<p>事務局 鶴見政策監、武田マチオモイ部長 奥田学研企画課長、松下学研企画課長補佐、比志島学研企画課企画政策係長</p>			
議題	<ol style="list-style-type: none"> 開会 議事 まち・ひと・しごと創生「総合戦略」次期計画の策定方針について 報告 「総合戦略」施策目標の達成状況について その他 閉会 				
会議結果要旨	<ol style="list-style-type: none"> 開会 ○事務局から開会を宣言した。 議事 ○会議録の署名委員として三上委員を指名した。 ○まち・ひと・しごと創生「総合戦略」次期計画の策定方針(案)について 資料1【木津川市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」次期計画の策定方針について】及び、資料2【まち・ひと・しごと創生基本方針2019(案)について】に基づき事務局から説明があり、承認した。 報告 ○第1期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績評価 資料3【第1期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績評価】に基づき事務局から報告があり、確認した。 その他 				

	5. 閉会
会議経過旨 ◎会長 ○委員 →事務局	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事 まち・ひと・しごと創生「総合戦略」次期計画の策定方針（案）について</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>○説明を聞いていても行政用語が多く分かりづらい、また、この会議での議論の内容が今後どのように反映されていくのかもわからない。 →分かりづらい用語については、用語解説を用意する等の配慮がなかったことをお詫びする。今後、資料作成の際には気を付けたい。また、今回の会議は、現行総合戦略の戦略期間が今年度末で終了することに伴い、次期総合戦略を検討するための会議であり、会議で議論いただいた内容については次期総合戦略に反映させるものとなる。</p> <p>◎「総合戦略」という名称からしても漠然としたもので分かりづらいことは確かである。「総合計画」と「総合戦略」の違いについても不明瞭な部分もあるが、「総合戦略」は5年間という比較的短期の間に課題解決に向けて取り組むものであり、国が取り組む課題と市が取り組む課題が同方向であれば国からの財政支援も受けることができる。</p> <p>○「総合戦略」は国の法律に基づいているもので、財源獲得にも有効である。ここで得た財源を市としてどう活用するのか。木津川市は現時点で人口が増加していることに目がいきがちであるが、人口減少が問題になっている地域もある。そういった、地域の問題についての戦略はあるのか。 →市内で人口が増加している地域、減少している地域が偏在していることについて、市としても課題と認識している。人口偏在をなくしていくこうとういうような活動をされている人や団体の環境を整え、支えていくのが市としての役割と考えている。現行総合戦略においても「まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出」を目標の一つとして取り組んでおり、第2期総合戦略においても継続して取り組むべき課題だと考えている。</p> <p>◎「総合戦略」は国や京都府の戦略と同じ流れになっていないと財源獲得が困難になるため、全てを「木津川市独自」の戦略にすることは難しいが、木津川市独自の課題についても検証し盛り込んでいく必要がある。木津川市の特色の一つである、市全体では人口増加しているが、地域によっては深刻な人口減少があることも継続的に取り組む必要がある。</p> <p>○「総合計画」と「総合戦略」があるが、国からの交付金が関係してくるのは「総合戦略」と考えていいのか。 →「総合計画」と「総合戦略」を全く切り離して考えることはできないが、「地方創生推進交付金」については「総合戦略」に定めた事業で、かつ国が示す要件を満たしたものについて交付されるものである。</p>

- 現行総合戦略の「スローガン」「姿勢」を維持させるというのは、全く同じ文言のまま維持させるのか、また、維持させつつ変更を行うのか。
→現行総合戦略の中で、推進できたものもあれば、できなかつたものがある。第2期戦略において「スローガン」「姿勢」については変更を行わず、維持・継承していきたいと事務局としては考えている。
- 現行「総合戦略」策定時も国や京都府の流れを汲みながらも、「子育て」を柱とした戦略にするなど、木津川市らしさを出せたのではないかと思う。第2期総合戦略においても、現行総合戦略の流れを引き継ぎ、木津川市らしさを出せればいいのではないかと思う。
- 「スローガン」は子どもにスポットが当たっているが、「基本目標」には子どもにスポットが当たっているものが少ない。「スローガン」が子どもに偏り過ぎているように思う。
→まちを活性化させることにより、子育てしやすいまちづくりに繋がっていくことから、「スローガン」として掲げた。実施した施策がどのように「子育て」に紐づいているのか明確になるように、目標ごとに「子育て未来—KPI」を設定して評価している。
- 「木津川市の子育て施策に魅力を感じて転入してきた」という声も聞く。他市町村に比べて「子育て」は充実していると思う。スローガンとして「子育て」を掲げるのは、人口増加にも繋がりいいことだと思う。
- 子どもがいない世帯では「子ども」に重点をおいたまちづくりに違和感を感じるかもしれないが、「子ども」が元気であれば、まちが活気づく、また「子育て」しやすいまちには、若い世帯の流入があり税収増加にも貢献してもらえる、結果として市民全体の利益になると考えると納得がいく。
- 「子ども」が全面に出ると、子どもが少ない地域を置き去りにしているように感じる。子どもが少ない地域にもスポットを当ててもらいたい。
→市全体としては人口が増えているが、限られた地域であることはご指摘のとおりである。多くの地域が少子高齢化してきていることは問題として捉えている。人口が増加している今のうちに、人口減少に備えた手立てを講じていく必要があるが、行政だけではなく、地域の方々と一緒に取り組んでいかなければならぬと思っている。総合戦略のスローガンでは「子ども育マチ・きづがわいい」としているが、基本目標のなかで人口減少に関しても実効性のある施策をしっかりと講じて行きたい。
- 「総合計画」では「子ども」から「高齢者」まで市民全体に対する施策についての計画であるが、「総合戦略」は「戦略」であるので5年間の間でどこに一番重点をおいて取り組んでいくのかを決めるものである。木津川市総合戦略では、様々な施策の中に「子育て」の視点を入れて取り組むことが、独自の特色となっている。「子育て」施策以外をしないというわけではなく、様々な施策の中に「子育て」の視点を入れていくということ。第2期総合戦略においても、そういう流れを継承させる方針案を市が示しているが異議

はないこととしてまとめたい。（委員 異議なし。）

4. 報告

第1期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績評価

【主な意見・質疑等】

- 人口増加を止めないためにも交通の便をよくする必要があるのではなか。
若い世帯が住居を決める際には「通勤」「通学」の便は重要視される部分だと思う
- 木津川市は3町が合併した市であるが、まだまだ市としての一体感がないように感じる。子育て世帯、また、それ以外の世帯も流入はあるが、地域ごとに課題が違うので、地域ごとに意見を聞く必要があると感じている。木津川市は子育て施策が充実しているが、保育園で使えるバスやプラネタリウムがなくなり、子どもの「ちょとした楽しみ」がなくなってしまった部分もある。市のいいところを伸ばすのか、悪いところを直すのか考えていかなければならない。また、高齢者等の社会的弱者に目を向けると、災害発生時等課題は多い、「自助」「共助」についても考えていかなければならぬと思う。「市」というくくりだけではなく地域ごとの課題解決が必要だと思う。
- 様々な課題があるが「総合戦略」に全てを盛り込むのは難しい。「総合戦略」は「子育て」をキーワードにしているが「小さい子ども」がいる世帯だけをターゲットにしているわけではなく、中学生や高校生、またその先には高齢者と繋がっていき、全ての世代について考えていく必要があるのは確かである。そういう全世代にかかる問題を「子育て」の視点を入れて「総合戦略」を組み立てていくということがポイントだと考える。
- 現行戦略のKPIを分析して第2期総合戦略を策定しなければならない。
KPI達成状況をA B C Dの4段階で評価した「資料3」を見ていると、事業ごとのKPIでは「A評価」が多いが、基本目標ごとの評価では「D評価」も多く見受けられる。このズレについても着目しながら、第2期総合戦略の参考にしていく必要がある。
- 「子育て未来—KPI」の中で「保育、子育てを支援するサービスに対する満足度」が23.7%と低いが、アンケートはどのような対象者で行ったのか。また、ICT（愛シティ）ライフ戦略参加登録者数の実績が「0」であるが、これは事業の実施がなかったということか。
→アンケートは総合計画策定時のもので、対象者を子育て世帯に限ったものではなく、市内全世帯から無作為抽出したものである。そのため高齢者世帯等子育てに直接関係のない対象者の場合は選択肢の中で「どちらでもない」を選択される割合が高くなり、それにより全体として「満足」の割合が低くなってしまう。また、同表中の「通勤・通学の交通の便利さ」においても「通勤・通学」をしていない対象者が回答することにより「どちらでもない」を選択する割合が上がるため「満足」の割合が低くなっている。

- I C T (愛シティ) ライフ戦略参加登録者数は事業の転換をしたため、本事業については未執行となった。
- I C T (愛シティ) ライフ戦略とはどのようなものであったのか。
→「健康ウォーキング事業」を想定しており、参加者に万歩計を配布し、歩数に応じたインセンティブを設定し、市民の健康に繋げる事業であった。しかし、事業実施のためのコストが大変大きなものになり、断念することとなった。
- なお、本事業は「フレイル対策」に関連した課題に転換しているが、基本目標については継続している。
- 「総合戦略」に係る事業については、交付金で賄っているのか、市の予算で対応しているのか。
→地方創生交付金の交付を受けているものと、受けていないものとある。地方創生交付金は補助対象事業の2分の1の経費を国・府から、その他の2分の1と補助対象事業以外の経費を市が負担している。
- 交付金や予算の内訳は。
→前回に開催した委員会において「交付金」に関連するご説明をさせていただいたが、次回の委員会で予算の執行状況について資料を用意させていただく。

5. その他

次回の「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」においては、本日頂いたご意見等を反映するとともに、後日開催を予定しているワークショップでの意見を踏まえて第2期総合戦略の骨子案をお示しする予定をしている。日程については、調整でき次第お知らせさせていただく。

6. 閉会